

# 報告

## 民主党北海道平成21年度政策懇談会

### 地域医療の再生と医師確保など要望

常任理事・医療政策部長 直江 寿一郎

10月16日(金)午後5時30分から札幌グランドホテルで開催された政策懇談会に、長瀬会長をはじめ9名の役員が出向き、13項目の要望を行った。

民主党からは、三井・鉢呂・逢坂各議員など多数の国会議員、道議会議員が出席され、当会の要望を受け止めていただいた。



佐野法充民主党北海道幹事長が進行を務め、はじめに、三井辨雄民主党北海道代表が「道民の意見を政策に反映させたい」と挨拶。長瀬会長が、「北海道の医療状況が窮地に陥っており、道民に安全な医療を提供することができなくなっている」と述べた。

続いて小職が、地域医療の再生と医師確保について、21の二次医療圏を抱え、医療資源の偏在が著しい本道の実情を考慮して、地域医療再生基金の交付金の重点的な配分など6項目の実現を求めた。

次に藤原常任理事が診療報酬とレセプトオンライン請求ほか、について、平成20年4月の診療報酬改定で、医科本体でプラス0.42%となったが、一部の病院が増収したものの、中小の病院、診療所の経営は厳しい。来年4月の改定時には地域医療を担うすべての医療機関が潤うよう、診療報酬の大幅な増額など4項目の実現を求めた。

三番目に水谷常任理事が、社会保険診療報酬に対する事業税非課税措置の存続と、現在医療機関が負担している控除対象外消費税(いわゆる損税)を患者さんに負担をかけないゼロないし軽減税率に改める、2項目について実現を求めた。

最後に、北野常任理事が、看護職員不足の要因として、7対1入院基本料導入を挙げ、道内において4年以内に看護職員養成校2校が閉校されるという現状に相反する施策を指摘。安定運営のための財政的支援を要望した。

これを受けて三井代表が、「民主党は生活に立った施策を打ち出している。医師会とは政策課題がほぼ一致している。承ったことを具体化させていきたい」と述べられ、医師確保、臨床研修医の定員増、



懇談会の様子

レセプトオンラインの任意化などマニフェストに沿って進めていく姿勢を示された。

逢坂誠二議員は、「医療機関が負担している消費税は、歯科も困っている。税制調査会で検討したい」と回答。

また、臨床研修医制度について「制度自体はよい制度だと思うが、今回の制度見直しにより医師確保に走るあまり形骸化するのではないかと懸念を示された。長瀬会長が、研修医が一般的な患者が集まる大病院に集中し、大学から地方に医師を派遣できなくなった経緯を説明。それに対して、逢坂議員は、「今回、拙速に変えるのは問題が出る。了解した」と明言された。

宮本副会長が、地域医療再生計画の再考の可能性を三井代表に質したところ、「二次医療圏数に応じた配分などを含め、再検討する。仙谷大臣とも約束している」と回答された。

最後に三井代表が「私も逢坂議員も薬剤師」と明かし、「医療の諸問題について今後も忌憚のないご意見をいただき、ともに議論してすすめていきたい」と謝辞を述べられ、午後6時15分閉会した。

#### 要望事項

(項目のみ記載)

1. 国民皆保険制度の堅持について
2. 地域医療再生計画について
3. 医師確保対策について
4. 臨床研修病院の募集定員枠と採用実績の取り扱いについて
5. 患者負担の軽減について
6. 社会保障費について
7. 診療報酬の増額改定について
8. レセプトオンライン請求義務化について
9. 療養病床再編に伴う入所施設の確保と療養病床の転換への支援等について
10. 乳幼児医療費助成制度について
11. 社会保険診療報酬に対する事業税非課税措置の存続について
12. 控除対象外消費税問題について
13. 看護職員の確保対策について